

3/27(金)第2回検討懇話会 発言要旨

第2回検討懇話会 > 10年後のあるべき姿について（検討手法）

あるべき姿策定にあたり、バックキャストिंगの方法や、市の強みを活かしたビジョンを策定する方法について議論がなされた

分類

3/27（金）検討懇話会 主な発言

10年後のあるべき姿について

意見交換

4つの
観点

- ヒト・地域・活力・土台という4つのキーワードについて、説明を受けた我々は意味を理解したが、地域**住民が理解・受用しやすいキーワードなのかは疑問**である
- 総合計画に基づきヒト・地域・活力・土台という4観点に分けること自体に違和感はない。一方、経済振興ビジョンでは**住民目線で考えることが重要**になるため、適宜注釈や補足が必要である
 - 例えば「経済分野における”地域”とは”〇〇地域”を指している」と分かるように補足が必要
 - 地域づくりという言葉を見ると市民団体や地域団体をイメージしてしまうため、**経済の話であると市民に分かるよう示した方がよい**

バックキャ
スティング
の方法

- 飛躍的な「10年後のあるべき姿」を定め、そこからバックキャストिंगで考える必要がある
 - ビジョン案にある「10年後のあるべき姿」は、現状の課題からフォアキャストिंगで考えられている。こうして定めた「10年後のあるべき姿」からバックキャストिंगで施策を考えても意味がない
 - 縮小・均衡状態から大きく角度を変えるためには、飛躍的な目標を定め検討する必要がある
 - 現状の課題に関する調査は十分行ったのだと推察するが、**産業・経済の在り方を描く上での基盤となるマクロ環境も分析したうえで、姫路市の目指す姿を検討するとよい**

市の強みを
活かす方法

- 今のビジョン案からは姫路らしさが見えないが、**姫路の強みを活かすことができれば、もっとわくわくする、求心力を持つビジョンになる**
 - まだ活用できていない**無形資産**も含めて、姫路市や市の地場産業にどのような可能性があり、変化する環境下で**どういう課題があり、姫路市がどういった方向性を目指すのか**を示すとよい
 - まずは姫路市の強みを並べ立てることが必要。定番の強みを並び立ててMECEに整理しても従来と同じビジョンにしかならないため、**一つ一つの地場産業にどのような人が関わっており、どのような無形資産の蓄積があるのか、深くリサーチしたうえでリストアップすることが必要**である
- 今のビジョン案は、他自治体のビジョンとしてそのまま転用できうる、特色がないビジョンである
 - 取組方法に市の独自色が出るならよいが、目指す姿・取組方法のどちらにも市の独自色が出なければ、「姫路市」経済振興ビジョンである必要がない
- より具体的かつインパクトのある内容を記載してほしい

第2回検討懇話会 > 10年後のあるべき姿について（各分野の内容）

市企業や市民・市外の人々の生の声を調査し、現状把握したうえで施策を検討する必要性が議論された。“姫路市といえば〇〇”というテーマを明確に打ち出す案も出た

10年後のあるべき姿について
意見交換

3/27（金）検討懇話会 主な発言

分類	3/27（金）検討懇話会 主な発言
ヒト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「〇〇支援」等の形で姫路市特有の強みを分かりやすく押し出すことが必要と考える <ul style="list-style-type: none"> ■ 労働者目線では、賃金が高いか、働きやすい環境であれば姫路市に住みたい・働きたいと考える ■ 姫路と言えば〇〇、というメッセージを発信するとよい。子育て支援は既に多くの市で取り組まれているが、労働者支援や学生支援等を打ち出すことも一案である
地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジョン案では、具体的にどの規模の企業でイノベーションを起こしたいのかが不明瞭 ■ 現在は景気もよく、姫路市の多くの事業会社は困っていない印象。困っていない今のうちに第2,第3の矢作りに取り組む企業も多いが、姫路市には事業案の壁打ちやスタートアップとのマッチング支援を行う機関がないため、大阪や東京に出て新規事業開拓をする企業が一定いる ■ 姫路市でイノベーションの成功事例を作り、姫路市には新産業創出の機運・熱量があると全国に発信するためには、まずは地元が盛り上がるのが必須である。泥臭く活動し、PRする姿勢が不足している
活力	<ul style="list-style-type: none"> ■ “イノベーションエコシステム”等の先進的なキラキラした概念を掲げることもよいが、姫路ならではの泥臭さも重要である <ul style="list-style-type: none"> ■ 地場の人だけでなく、転出した人や市に来たことがない人から意見を聞くことで、姫路市といえどという町であるかというイメージが見えてくる。イメージを的確に掴み、無視しないことが重要である。キラキラした都市がやるべき施策と、姫路市がやるべき施策を区別し差別化するとよい
土台	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地場産業振興に向け最初の5%の人材を掘り起こす必要がある。姫路市にUターンしてきた人がなぜ帰ってきたのかを深ぼると、5%の人材を見つけるきっかけになりうる <ul style="list-style-type: none"> ■ 例えば、親の跡継ぎのために帰ってきたのか、他にきっかけがあって帰ってきたのか、等が分かるとよい

第2回検討懇話会 > 10年後のあるべき姿について（文面案）

あるべき姿の文面は、方向性を明確に定めたうえで今後検討する
（飛躍的な目標にするか、堅実な目標にするか。何を注力テーマとするか…等）

分類

3/27（金）検討懇話会 主な発言

- 姫路市民をターゲットとし、10年後のあるべき姿の文面を考えればよいか
 - 認識の通りである
- 今の文面案は、多くの人に当てはまる最大公約数的な文面だが、これまでと同じようなビジョンを策定するのか、勇気を出して目指す姿を新たに定めるのか、選択する必要がある
 - 姫路の人々がどのような人間像を目指したいか、イメージするキャラクター像を検討することも一案。
例えば、「口は悪いが、仕事を指せばピカイチ」等
- 現状の延長戦でできることではなく、どのような強みを活かして、新しくどうなりたいのかを考えるとよい。
まずは注力するテーマを決める必要があるため、テーマを決める前に文面を考えることは難しい
- どの地域にも当てはまる従来通りの文面にすべきでない一方、新しい方向性を示した場合に姫路市が実現できるのかは考慮する必要がある
- 文面案の検討は、次回に持ち越しとする。次回までに各々文面案を検討してほしい

10年後のあるべき姿について

意見交換

あるべき姿
の文面